

(様式1) 実践事例

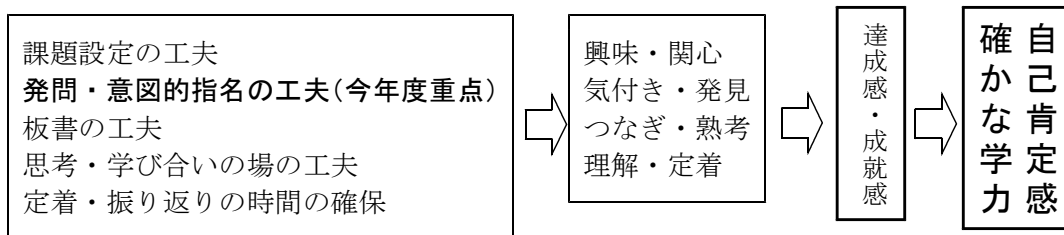
| | | | | | |
|-----|-----------------|------------|---|-----|----|
| 学校名 | 二本松市立二本松第一中学校 | 校長名 | 鈴木 一高 | | |
| 住所 | 福島県二本松市郭内2-56-1 | 児童生徒数 | 466 | 学級数 | 19 |
| TEL | 0243-23-0870 | ホームページアドレス | http://www.city.nihonmatsu.fukushima.jp/1-jh/ | | |

自己肯定感を高める指導の工夫 ～学びの質を高める少人数指導の工夫～

1 少人数指導の計画等

(1) 「学習の合い言葉教師用」(松一スタイル)をもとにした少人数指導

- ・「学習の合い言葉教師用」をもとに、生徒の「学び」を認め、生かし、成就感を味わわせるよう少人数指導を工夫する。



今年度重点事項である「発問・意図的指名の工夫」のため、少人数学級を生かし、以下の2点に取り組んだ。

- ① 生徒を見取るための座席表の活用
 - ② 班活動を活性化するための教師の関わり
- (2) 諸検査・アンケート結果の分析、活用
- ・ハイパーQUと学習アンケート、自己肯定感アンケート、定期テストの結果を比較し、その相関と対策を考え、少人数指導に生かす。

2 実践の概要

(1) 各教科の実践

国語科 発問や意図的指名により多様な読みを引き出し、個々の読みを深める実践
第2学年 「走れメロス」 【学習課題】「結局メロスとはいったい何者だったのか」

- ① メロスの人物像が変化することを示唆する描写について発問をする。
- ② 「恐ろしく大きいもの」について自分の考えを書く。
- ③ メロスの走る目的の変化について話し合う。
- ④ メロスの人物像の変化について考え「メロス」の空欄に入る、メロスを端的に表す言葉を考える。

<学習課題把握場面の発問>

T:メロスは、何のために走っているのでしょうか(主発問)
S:セリヌンティウスを助けるためです。
S:王様との約束を果たすためです。
T:なるほど。では、本文のメロスの言葉にある「人の命も問題ではないのだ」とは、どういうことでしょうか(補助発問)
S:セリヌンティウスが助かることは問題ではないという意味…
S:間に合わなくても良いという考えでは…
T:間に合わせる、助けるためにメロスは走ってきたのでしたね。では、「人の命も問題ではない」のに、メロスはなぜ走り続けているのでしょうか(主発問)
S:(本文を再読しながら、考え始める)

<生徒を見取るための座席表の活用>

導入段階で発言力のある生徒を指名し、前時の授業内容に関する問答(言葉のやり取り)をデモンストレーション的に行うことで、学習への好奇心を刺激した。少人数学級を生かし、座席表を用いて生徒一人一人の思考の現在点を正確に見取ること、その思考をさらに進めるための発問や助言を工夫することができた。やや難易度の高い課題ながらも、生徒は最後まで思考を止めることなく学び合う姿が見られた。

数学科 実際に計測できない長さを縮図を使って計測することのよさを実感できる実践 第3学年 「相似な図形」

【学習課題】「縮図をかいて体育館の明かり取り窓までの高さを求めるにはどうすればよいか」

- ① 体育館の明かり取り窓までの距離を測定する。
- ② 縮図をプリントにかき、理論値を求める。
縮尺を決める→縮図をかく→答えを求める
- ③ 計算して求めた理論値を発表する。
- ④ 実測値と理論値を比較する。

＜班活動を活性化するための教師の関わり＞

測定器具（角度）や縮尺は班ごとに決めさせた。数値は他の班との比較ができるようホワイトボードに記入させた。早く終わった班には別の角度でも調べさせた。生徒は、角度が変わっても結果は同じになることや、45度の縮図を使えば簡単に答えが出せることに気付くことができた。最後に、実際に空間中に直角三角形を見せて、視覚的に捉えさせた。少人数学級のため、教師の関わりが増え、すべての班で、実際の高さとほぼ一致する答えを導き出すことができた。



～空間内に三角形を作る～

| 《測定の記録》 | | 班 |
|-------------------------------------|-------------------------|-----|
| <input type="checkbox"/> | 窓を見上げる角度・・・ | □ 度 |
| <input type="checkbox"/> | 窓の下側が見えるポイントから壁までの距離・・・ | □ m |
| <input type="checkbox"/> | 縮図の縮尺・・・ | □ |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 窓までの高さ・・・ | □ m |

(2) 諸検査・アンケート結果の分析、活用

自己肯定感アンケート、ハイパーQ U、学習アンケート、定期テスト結果を分析し、個に応じた支援策を全職員で共有し、少人数指導に生かした。

- 自己肯定感アンケート結果の高い生徒(平均3.7以上または上位3名) 抜粋(例)

| 氏名 | 自己肯定感 | | | | 学習結果 | 中間順位 | ハイパーQ U検査結果 | | | | |
|--------|-------|-----|-----|-----|------|------|-------------|-----|----|----|-----|
| | 平均 | 自尊 | 有用 | 対人 | | | 満足 | 非承認 | 慢怠 | 不潔 | 要支援 |
| 二本松 太郎 | 3.8 | 3.8 | 3.6 | 4.0 | 3.6 | 40 | ○ | | | | |

- 自己肯定感アンケート結果の低い生徒(平均2.5未満または下位3名)

| 氏名 | 自己肯定感 | | | | 学習結果 | 中間順位 | ハイパーQ U検査結果 | | | | |
|--------|--|-----|-----|-----|------|------|-------------|-----|----|----|-----|
| | 平均 | 自尊 | 有用 | 対人 | | | 満足 | 非承認 | 慢怠 | 不潔 | 要支援 |
| 二本松 花子 | 1.8 | 1.5 | 1.8 | 2.3 | 2.5 | 110 | | | ○ | | |
| | 支援の手立て 自信を持って答えられるように、簡単な問題を発表させる。また、ヒントを与えたり、発表前に正答であることを告げておいたりする。 | | | | | | | | | | |
| 二本 松子 | 2.1 | 2.5 | 1.8 | 1.6 | 2.7 | 87 | | | | ○ | |
| | 支援の手立て 周囲との関わりの中で、互いに高められる関係作りが必要である。グループ活動の時、メンバー構成に配慮する。 | | | | | | | | | | |

3 実践の成果と課題

- 生徒一人一人の学びの質を高める少人数指導の工夫に取り組んだことにより、生徒の学習意欲の向上、思考の深化、知識・理解の定着を図ることができた。
- 諸検査の分析結果や座席表を活用して、教師が生徒一人一人の状況を適切につかみ、個に応じた支援を行うことにより、少人数教育の効果を高めることができた



「～自己肯定感アンケートの結果～」

- 生徒観察と諸検査分析から生徒理解を進め、一人一人の「学び」の質を高めることで、少人数教育の効果を高める実践研究を今後も継続していきたい。